

公表 事業所における自己評価結果

事業所名 **りはくる**

公表日 **令和8年2月28日**

回収率 **83%**

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	人数、メンバーにあわせて調整している	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3		現在は社内監査による業務改善を行っており、第三者による外部評価は実施していない。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0		
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0		
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0		
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0		
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0		
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0		
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	利用者に応じて行っている	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0		
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1		朝礼、支援開始前の時間に、当日の利用者と支援内容について共有し、当日の役割分担について話し合っている。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0		
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0		
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0		
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	0		
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	話し合いをとりいれている 話し合いをする機会を設けたり、どのように行いたいのかその子にたずねてみたり、考えて取り組む内容を設定したりしています。	

関係機関 や保護者 との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	必要に応じて関係機関との情報共有を行っている。
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	4	1	小学校との年間計画の予定の共有、送迎時間の確認等で定期的に連絡調整を行っている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	1	必要に応じて、利用者様の支援内容や検査による評価内容について情報共有を行っている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	1	現在、該当する利用者様がおられないが、必要に応じて対応していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2	現在はこのような機会は設けていないが、必要に応じて連携を検討していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	5	現在そのような機会は設けていないが、利用者様のご希望に応じて今後の機会確保について検討していく。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	3	2	代表者がこども部会に参加している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2	保護者様のニーズを踏まえ、事業所での取り組みを検討するとともに、保護者様が参加できる研修や有用な情報等を積極的にご提供できるよう努める。
保護者 への説明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	0	5	保護者ニーズを踏まえ、実施を検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4	現在、地域の方を招く機会は設けていないが、地域の方を活動の講師としてお招きする等の交流がある。利用者様のニーズに合わせ、地域に開かれた事業所運営ができるよう努力していく。
非常時 等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	0		

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	りはくる		
○保護者等評価実施期間	令和7年10月20日	～	令和7年12月31日
○保護者等評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	令和7年10月20日	～	令和7年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月28日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援計画の作成・共有・モニタリングまで一貫して実施し、計画に沿った支援を組織的に行っている。	支援開始前後に打ち合わせを行い、役割分担と振り返りを共有している。	PDCAサイクルを意識し、支援内容のモニタリングの質を高め、個々の利用児に最適な支援を日々検討する。
2	支援前後の打ち合わせや記録の徹底、振り返りの実施など、チームの体制が整っている。	活動プログラムは利用者に応じて調整し、話し合いを取り入れ自己決定を促す支援を行っている。	職員の専門性向上のため、外部研修やスーパーバイズ機会の拡充を検討する。
3	各種マニュアル整備、訓練実施、ヒヤリハット共有など、安全面の体制が明確である。	安全計画の策定やBCP整備、各種訓練を定期的に行っている。	安全対策の取り組み内容を保護者へもより分かりやすく可視化する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第三者による外部評価が実施されていない。	社内監査を実施、社内で業務改善を目指す取り組みを行っている。	現在の社内監査による負担保を継続しつつ、外部評価受審のメリット・必要性を慎重に検討していく。
2	地域の児童や住民と交流する機会を設けていない。	活動の外部講師として地域の方を招く機会を設けている。	現状行っている外部講師の招集等の交流を大切にしながら、利用者の負担やニーズを考慮し、地域に開かれた運営の在り方について適切な範囲と方法を検討していく。
3	家族同士が交流する機会や家族支援プログラムの提供を行っていない。	ご家族へ個別に相談したり、外部での催しについて情報提供する機会を設けている。	個別の相談支援を主軸としつつ、保護者からの具体的な要望やプログラムへのニーズを適宜吸い上げ、当事業所に適した支援の拡充について可能性を探っていく。